

## テーマ:『Oh KOBE リゼ♪ 神戸市ミュージアムロード』

「花の都パリ」を象徴するシャンゼリゼは、二つの凱旋門をつなぐ幅100m、全長2kmのマロニエの並木道である。シャンゼリゼにはルーブル美術館を始め多くの美術館や有名ブティック、名物カフェがある。一方の「神戸市ミュージアムロード」は、兵庫県立美術館から王子動物園までの南北約1.2kmである。周辺には、神戸文学館を始め、多くの文化施設が集積しており、シャンゼリゼとの共通点が多くある。「神戸市ミュージアムロード」の道路空間と広場を、10年後、20年後の「文化と芸術性にあふれた歩きやすい空間」へと進化させるため、パリのシャンゼリゼ通りの改造を参考に、観光客も魅了するアイデアを提案します。シャンゼリゼ通りは、近年、「15分都市論」を取り入れ、車道を縮小して歩道を拡張し、大規模な植栽を行う「緑化・人間中心の空間づくり」を推進しています。このコンセプトを核に、神戸ならではの個性を融合させます。名付けて『Oh KOBE リゼ♪ 神戸ミュージアムロード』

### 1. 「歩行者優先」の緑化・空間デザイン

#### 車道の大幅な削減と歩道の拡張

シャンゼリゼ通りが車線を半減し、歩道と緑地を増やしているように、ミュージアムロードも車線数の多い岩屋中町交差点などの車道の車線数を減らし、その分のスペースを植栽やテラスなどを組み合わせた「遊歩道(プロムナード)」へと転換します。



現況:国道2号線 岩屋中町交差点

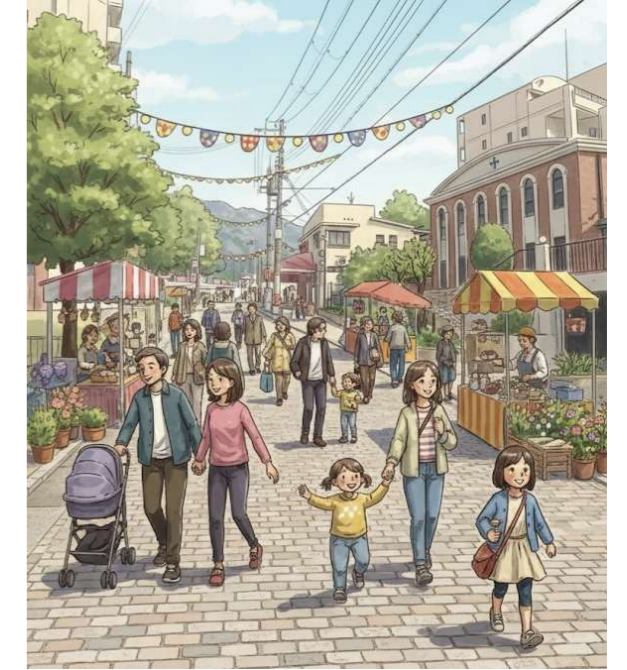


構想案:車線を減らして歩道空間を拡幅する

- 「緑の縁(ふち)取り」とシェードの創出: 拡張した歩道には、神戸の気候に適した高木を計画的に植樹し、夏は日陰を提供し、年間を通して景観と空気の質を向上させます。
- 素材の統一と上質化: 歩道の舗装材やストリートファニチャー(ベンチ、街灯等)のデザインを統一し、港町・神戸らしい洗練された上質な空間を演出します。「美カエル」デザインの展開を図ります。
- 「ノーカーデー」の定期実施: 月に一度、または季節のイベントに合わせて、ロード全域の車両通行を止め、完全な歩行者天国(トランジット・モール)として開放します。



灘駅前線の素材の統一と上質化



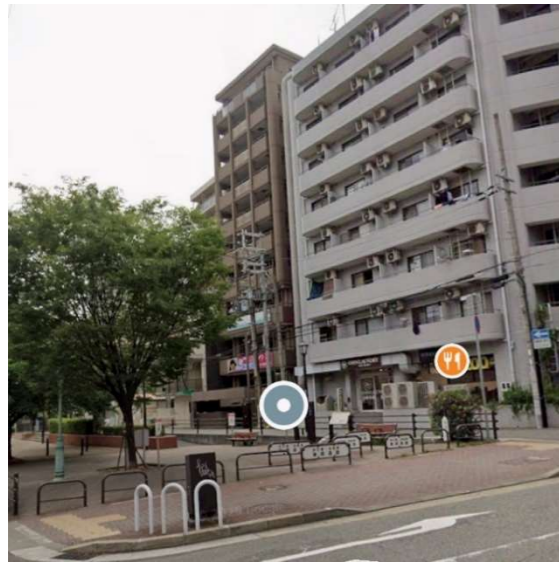
歩行者天国の構想案:車道と歩道の段差をなくし、石畳舗装にする。

### 2. 「文化と芸術」を体験する仕掛け

#### ミュージアム・ロード・テラス(オープンカフェ・文化交流)

シャンゼリゼ通りがカフェのテラス設置を義務付けるように、ロード沿いの店舗や未利用空間にオープンテラスを奨励します。

- 美術館カフェとの連携: 美術館内のカフェやレストランがロードに面したテラス席を設け、アート鑑賞後の余韻を楽しめる空間を提供します。パンの聖地神戸も前面に売り出します。
- 文化交流スペース: テラスでは、地元のアーティストによる作品展示や、観光客と地元住民が交流できるワークショップなどを開催し、単なる消費ではない「出会いの場」を創出します。



現況：臨港鉄道跡地（灘駅南口付近）



構想案：オープンカフェを設置する

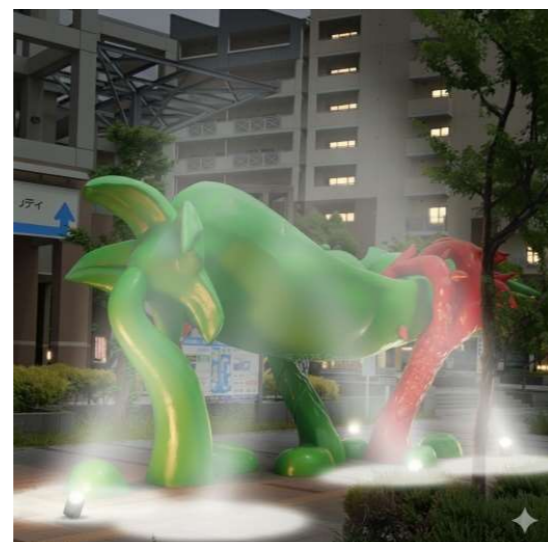
### 「神戸アート・ナイト」の創設

観光客を夜間にも呼び込むために、パリの「ニューイ・ブランシュ(白夜祭)」を参考に、夜間の文化イベントを定着させます。冬のクリスマスイルミネーションなども。

- **ライトアップとプロジェクションマッピング**: ロード沿いのパブリックアートや「灘駅前拱橋」、レンガ造りの神戸文学館などの建築物、植栽を効果的にライトアップし、夜間の美しい景観を創出。また、兵庫県立美術館の外壁に神戸の歴史や芸術をテーマにした映像を投影します。
- **美術館のナイトオープン**: 期間を限定して、ロード沿いの美術館やギャラリーを夜間営業し、非日常的なアート体験を提供します。
- **ドローンによる光のショー**: ドローンにより、王子公園内に実物大の高さ210mのエッフェル塔を、兵庫県立美術館付近の海上に凱旋門を、ロード上空に光の道を描く光のショーを行う。



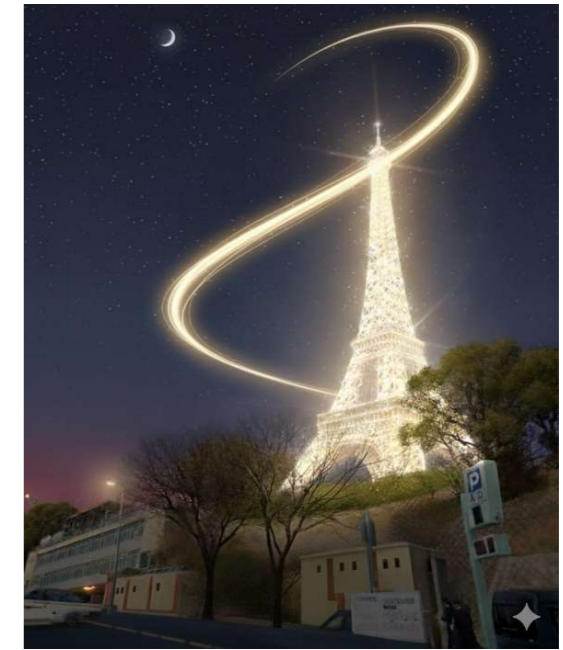
県立美術館のプロジェクションマッピング



パブリックアートのライトアップ



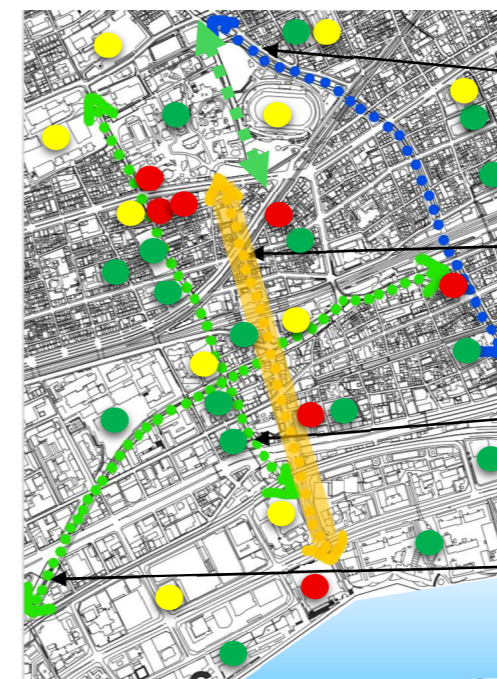
イメージ図：兵庫県立美術館の南側の海上にドローンによる「光の凱旋門」



イメージ図：王子公園の現スタジアムにドローンによる「光のエッフェル塔」と「光の道」

### 3. 「回遊性」を高める「緑と水と文学の道」のネットワークとサービス

- ミュージアムロード周辺の王子公園や青谷川公園、神戸テニス協会、王子南公園、脇浜公園、なぎさ公園、摩耶海岸通公園など六甲山から神戸港へ「緑と水と文学の道」のネットワーク化を図ります。例えば、灘駅南口付近の臨港鉄道跡地を利用して、ニューヨークのハイラインのような海外客も呼べるようなお洒落な遊歩道に再整備し各ルートネットワークします。(下図)



凡例 ●:美術館・ギャラリー ●:公園等 ●:学校

「水の道」(青谷川沿い):  
水辺の癒しの空間として橋爪広場と散策路を整備する

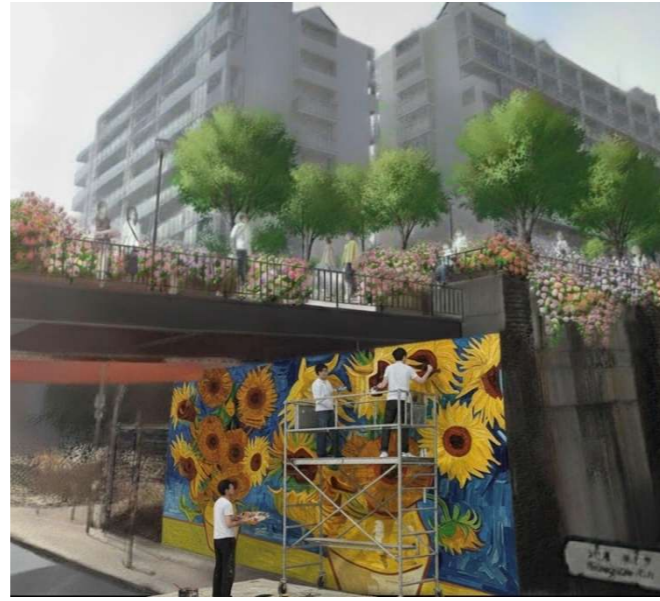
「ミュージアムロード」(王子公園～兵庫県立美術館):

「文学の道」(神戸文学館～兵庫県立美術館):  
沿道の小中学校・高校・大学などの教育施設と4つの公園などに、兵庫県ゆかりの文学者の解説サインを設置する。散策と休息の場として緑化を図る

「緑の道」(臨港線跡地):  
ナチュラルガーデンを取り入れ、ニューヨークのハイライン化を図る



現況：神戸臨港線跡の庄境架道橋付近



構想案：緑と花のハイラインに再整備する。  
市民参加でガード下に壁画を作成する。

#### 質の高いホスピタリティサービスの提供

- **観光コンシェルジュの配置**：ロードの主要な広場に、専門知識を持ったコンシェルジュを配置し、観光客への案内に加え、芸術や文化に関する情報提供を行います。
- **シェアサイクル・モビリティの導入**：ロードの両端や灘駅前など主要な広場に、おしゃれなデザインのシェアサイクル・ステーションを設け、長距離の回遊を促進します。

#### 4. 「循環型サードプレイス」の提案

急激な少子化の進行により、将来、ミュージアムロード近辺の小中学校などの統廃合が発生する可能性があります。その際、パリ郊外パンタン市のサードプレイス「ラ・シテ・フェルティル」を手本として、学校跡地に「循環型サードプレイス」を提案します。

「ラ・シテ・フェルティル」は、既存施設(貨物駅舎跡)を再利用し、サステナブルと社会・環境連帯経済をコンセプトに、環境対策や文化的な催し、市民の交流、起業家のイノベーションの場として期間限定で運営されている広大な複合施設です。特に、食、環境、教育、多世代交流に重点を置いています。

コンセプト：「六甲の自然と歴史を継承し、未来の循環型ライフスタイルを発信する、地域に開かれた持続可能な実験場」

- 「**地産地消・食育テラス**」：地域の農産物や神戸ワイン、灘の酒を提供するレストランやマルシェスペースを設置。菜園(市民農園)と連携させ、収穫体験や食育ワークショップを定期開催。
- **地域イベント、アート展示、ファーマーズマーケット**、の空間として運用。
- アート関連施設として「**チームラボ神戸**」を誘致する。



「地産地消・食育テラス」のイメージ図



「チームラボ神戸」の内観イメージ図

#### 5. 「持続可能」なミュージアムロードの運営

地域、企業、行政が一体となり、この新しい空間を長期的に維持・発展させる仕組みを構築します。

##### 地域コミュニティの巻き込み

- 「**ミュージアムロード・サポーター制度**」：地域住民や沿道の店舗、企業が清掃や植栽管理、イベント運営に参加するボランティア制度を確立。愛着と責任感を育みます。
- **学校との連携プログラム**：地元の小中学校、大学と連携し、道路空間を「生きた教材」として活用する授業や、学生によるアートイベントの企画・運営を組み込みます。これにより「樹木10年、樹人100年」との格言があるように身近にアートを感じ理解する若者が育ちます。

##### 資金調達の多様化

- **アート・ファンドの設立**：企業からの寄付や、パブリックアートのオーナー制度(ネーミングライツなど)を導入し、施設の維持管理や新たな作品設置のための安定した資金源を確保します。

これらのアイデアを実行することで、神戸市ミュージアムロードは、「神戸の文化と芸術の心臓部」として、観光客がパリのシャンゼリゼ通りを歩くように、何度でも訪れたい、活気と知性あふれる「歩いて楽しい」空間へと生まれ変わるでしょう。(以上)